

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 17 日現在

機関番号：34315

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K20070

研究課題名（和文）民主化失敗以降のアラブ政治変動と穏健派イスラームの国際的思想構築

研究課題名（英文）The Formation of Moderate Islam in the Democratization of the Arab World

研究代表者

黒田 彩加（Kuroda, Ayaka）

立命館大学・立命館アジア・日本研究機構・准教授

研究者番号：90816183

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、2010年代を通じてアラブ諸国の民主化が挫折し、権威主義体制の復活や紛争地における過激派の勃興、アラブ域外を含む各国での宗教的不寛容や急進派思想の蔓延などの問題が起こる中で、各地のムスリム知識人がどのような政治思想や改革思想を提唱しているのか探究することを目的としていた。研究の結果、2010年代中盤以降、イスラーム法の施行を目指すイスラーム主義とは異なる位相で、イスラーム法が保護しようとしている道徳的価値に重点を置き、ヒューマニズムを志向する政治思想という新展開がみられること、イスラーム的諸価値と近代的諸価値の融合をめざす思想潮流の活動が未だ盛んであることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、アラブにおける宗教と政治をめぐる思想研究（とりわけイスラーム主義研究）が行き詰まりを見せる中で、2010年代中盤以降においても新たな政治思想が展開していることを明らかにしたもので、政治思想研究に新たな知見を加えることができた。とりわけ、イスラーム法の施行を大きな目標とするイスラーム主義とは異なり、イスラーム法が重視する道徳的価値の実現という視座から政治や社会改革を提言する、ヒューマニズムを志向する政治哲学という新展開がみられることが明らかになった。イスラームと多文化共生が重要な課題として位置づけられる現代世界において、これは課題解決につながりうる思想として位置づけられるものである。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to explore the political ideas of Arab-Muslim intellectuals in the face of the setback of democratization in Arab countries since the mid-2010s. By analyzing the writings of Muslim intellectuals active in the Arab world and in the West, this study clarified that even after the setback of the democratic movement, there has been a new development of political thought oriented toward humanism, with an emphasis on the moral values that Islamic law seeks to protect, in a different phase from Islamism, which seeks to enforce Islamic law.

研究分野：中東地域研究

キーワード：中東地域研究 イスラーム思想研究 イスラーム政治思想 穏健派と過激派 アラブの春 ムスリム知識人 シャリーアの目的論

1. 研究開始当初の背景

2020年代初頭のアラブ諸国の民主化運動の結果、一時はイスラーム主義勢力を含む様々な宗教・政治潮流が台頭し、アラブ世界内部および学术界において、宗教と政治の関係をめぐる議論が活性化した。しかしその後のアラブ諸国の政治状況は、内戦状態に陥った一部地域における過激派の勃興や、民主化の失敗による権威主義体制への回帰といった状況に至った。

2010年代半ばの代表的な過激派組織 IS がシリア・イラクにおいては衰退した後も、アジア・アフリカから欧州に至る広域で、イスラーム過激派・急進派の台頭、急進派思想や宗教的不寛容の蔓延が大きな政治・社会問題となっていた。さらに、アラブの民主化運動の契機となった社会・政治問題の多くは未解決であり、このような状況下で、アラブおよび現代イスラーム世界でどのような提言や取り組みが行われているのかを解明する必要がある。しかし、2010年代半ば以降のイスラーム主義の停滞などもあり、中東やアラブにおける宗教と政治の関係ならびに現代イスラーム政治思想の研究がやや不足している状況にあった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、上記の思想状況の混乱の解決につながる存在として、アラブ諸国での民主化運動の失敗以降も、各国で宗教・政治・社会の関係をめぐる問題群の解決に取り組む穏健派・改革派の知識人勢力に着目し、彼らの政治思想や社会への提言を、急進派との対照において解明しようとするものである。民主化運動の勃興と挫折、過激派の台頭といった「アラブの春」以降の政治・社会変動をうけて、現代イスラーム政治思想にどのような変容が生じているのかを、穏健・改革派勢力の政治思想やイスラーム改革論、イスラーム法学論から解明する。

3. 研究の方法

本研究は、主に文献研究と理論研究によって実施した。フィールド調査については、新型コロナウイルス等の状況から計画変更を余儀なくされた。

文献研究においては、アラブ（特にこれまで研究対象地域としてきたエジプト）のみならず、欧米で活躍しつつアラブの政治・社会状況に対して提言を続ける著名なムスリム知識人の著作の著作も広く分析対象とした。文献研究にあたっては、イスラーム政治思想からみた国家権力とジェンダー、過激派や宗教的厳格派批判、アラブ諸国の民主化、イスラーム法と国家の関係、イスラーム改革の方法論などの諸点から読解と分析を行った。

さらにそのための理論的視座として、宗教学におけるポスト世俗化理論や、政治学におけるイスラーム主義研究や政治思想研究の方法論も参照した。

4. 研究成果

(1) 本研究の主たる成果として、イスラーム世界における改革派知識人の代表的存在でありながら、本邦でこれまで研究されてこなかったハーリド・アブルファドル（ハーリド・アブー・アル＝ファドル、Khaled Abou El Fadl）の政治思想の研究を実施し、以下のことを明らかにした。

第一に、彼がイスラーム諸学とヒューマニズムの融合を目指したイスラーム政治思想を展開していることを明らかにした。その思想が現代で注目されているイスラーム法学の理論である「シャリーアの目的論」と通底する、イスラーム法が重視する道徳的諸価値の実現を目指すものであることを明らかにした。彼の政治思想は、1990年代以降隆盛を迎え、イスラーム主義勢力の間でも広がった「イスラーム民主主義論」に対する批判的視座に立つものであり、そのオルタナティブとして位置づけられるものである。

第二に、彼の言論が、単なる過激派批判に終始するのではなく、アラブやエジプトの近代化のあり方に対する批判を主眼とするものであり、その過程で生じたイスラーム思想の諸問題にアプローチするもので、現代イスラーム思想の内部批判としても位置づけられるものであることを考察した。さらに、アラブ諸国における民主主義の実現をめざす彼の思想が、イスラーム思想の復興・改革という思想的目標と接続されながら展開していることを明らかにした。

(2) 代表者はこれまでエジプトを主たる研究対象地域として、イスラーム的諸価値と近代性の融和をめざす思想潮流を「中道派（思想家群）」と呼称し研究を進めてきた。本研究の主たる第二の成果として、2010年代後半における彼らの活動についても研究を実施した。

中道派思想家群における国家とジェンダーの概念に関する論文発表を行ったほか、エジプトの中道派を代表する知識人であったターリク・ビシュリーの民主主義論・近代化論・政治改革論の研究を実施した。その研究実施の過程で、現地の動向として、彼らの思想や知的遍歴を総括し、その継承を目指すという重要な動きが起こっていることを発見した。本成果については、英文ブックレットおよびアラビア語論文にて発表することができた。とりわけ、現地への成果還元という観点から、アラビア語での論文発表に至ったことの意義は大きいと考えている。

以上のように、2010年代中盤以降におけるイスラーム政治思想の展開として、イスラーム主

義とは異なる位相で、道徳的価値に重点を置いたイスラーム政治思想が発展しており、とりわけ「シャリーアの目的論」と呼ばれるイスラーム法学の理論の影響が観察されること、イスラーム的諸価値と近代性の両立を目指す思想潮流の活動が継続しており、その世代間継承が進んでいることをその内実とともに明らかにした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 黒田彩加	4. 巻 -
2. 論文標題 現代イスラーム改革の思想戦略と『現代のムスリム』誌：20世紀後半のアラブ思想界の深層を読む	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 千葉悠志・安田慎編『現代中東における宗教・メディア・ネットワーク：イスラームのゆくえ』	6. 最初と最後の頁 53-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kuroda, Ayaka	4. 巻 -
2. 論文標題 I'ada al-Nazar fi Niqashat al-Din wa al-Dawla fi Misr al-Mu'asira (Rethinking Discussions on "Islam" and "State" in Contemporary Egypt) (日本中東学会学術年報34-(1)掲載論文の翻訳)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Ibrahim al-Bayyumi Ghanim and Nadiya Mahmud Mustafa eds, Manhaj al-Nazar al-Hadari fi Qadaya al-Umma: Qira'a fi Fikr Tariq al-Bishri, al-Dar al-Maghribiyya li-l-Nashr wa al-Tawzi'	6. 最初と最後の頁 959-994
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kuroda, Ayaka	4. 巻 -
2. 論文標題 al-Inbi'ath al-Hadari wa Naqd al-Hadatha al-Gharbiyya: Muqarana bayna Misr wa al-Yaban (「文明の復興と西洋近代批判：日本とエジプトをめぐる比較考察」)	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Ibrahim al-Bayyumi Ghanim and Nadiya Mahmud Mustafa eds, Manhaj al-Nazar al-Hadari fi Qadaya al-Umma: Qira'a fi Fikr Tariq al-Bishri, al-Dar al-Maghribiyya li-l-Nashr wa al-Tawzi'	6. 最初と最後の頁 1003-1028
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ayaka Kuroda	4. 巻 3(1)
2. 論文標題 Book Review: Zaynab El Bernoussi, Dignity in the Egyptian Revolution: Protest and Demand during the Arab Uprisings	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Protest	6. 最初と最後の頁 160-163
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒田彩加	4. 巻 -
2. 論文標題 オンライン説教：YouTubeとInstagram時代のイスラーム（コラム）	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 須永恵美子・熊倉和歌子編『イスラーム・デジタル人文学』人文書院	6. 最初と最後の頁 66-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 黒田彩加	4. 巻 3
2. 論文標題 アラブ革命以降のイスラーム政治思想の新動向：ハーリド・アブルファドルにおける「イスラーム民主主義」批判と「シャリーアの目的論」の連関を手がかりに	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 立命館アジア・日本研究学術年報	6. 最初と最後の頁 124-132
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34389/ritsumeikanasiajapan.3.0_124	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Kuroda, Ayaka	4. 巻 56
2. 論文標題 Modern Statehood, Democracy, and Women's Political Rights: Reconstruction of Political Thought in Egyptian Moderate Islamic Trend	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Orient: Journal of the Society for Near Eastern Studies in Japan	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.5356/orient.56.121	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 黒田彩加	4. 巻 -
2. 論文標題 文献と向き合う喜び、個人史の交差点：エジプト・イスラーム研究の経験から（エッセイ）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 研究者エッセイ『アジアと日本は、今』（立命館大学アジア・日本研究所HP）	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Kuroda, Ayaka	4. 巻 2
2. 論文標題 Book Review: Dialogues with Tariq al-Bishry: An Intellectual Journey between the Self and the Community	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of the Asia-Japan Research Institute of Ritsumeikan University	6. 最初と最後の頁 187-189
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34389/asiajapan.2.0_187	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件 (うち招待講演 9件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 黒田彩加
2. 発表標題 中東における宗教と政治 (講演)
3. 学会等名 阪神シニアカレッジ国際理解学科 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 黒田彩加
2. 発表標題 激動の中東情勢を読む (講演)
3. 学会等名 阪神シニアカレッジ国際理解学科 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 黒田彩加
2. 発表標題 イスラームとは何か (講演)
3. 学会等名 阪神シニアカレッジ国際理解学科 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 黒田彩加
2. 発表標題 イスラーム思想の挑戦（講演）
3. 学会等名 阪神シニアカレッジ国際理解学科（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 黒田彩加
2. 発表標題 「シャリーアと国家」をめぐる現代思潮とイスラーム改革：ハーリド・アブルファドルの政治思想の分析から
3. 学会等名 日本中東学会第38回年次大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 黒田彩加
2. 発表標題 新しいイスラーム哲学の見取り図
3. 学会等名 立命館大学アジア・日本研究所 学際ラウンドテーブル「アジア・日本研究の課題と戦略：ポストコロナ時代を見据えて」（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 黒田彩加
2. 発表標題 al-Naqd al- 'Arabi li-l-Hadatha al-Gharbiyya fi al-Fikr al-Misri al-Mu ' arir: Tariq al-Bishri wa Tarh al-Tajaddud al-Hadari Unmudhajan（現代エジプト思想における西洋近代批判：ターリク・ビシュリーの文明の革新論を例として）
3. 学会等名 第1回 イスラーム文明とアラブ文学に関する日本・インドネシア国際会議（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 黒田彩加
2. 発表標題 現代イスラーム思想における国家権力とジェンダー：家族、公の秩序、勸善懲悪
3. 学会等名 2021年度第2回 iAIG（インターアジアなイスラームとジェンダー）研究会「イスラームとジェンダーをめぐる政治と国家」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kuroda, Ayaka
2. 発表標題 Global Islamic Intellectuals Reconstructing the Ideals upon the Ruins of Modernity: The Case of Khaled Abou El Fadl
3. 学会等名 The 19th Asia-Pacific Conference, Ritsumeikan Asia-Pacific University（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 黒田彩加
2. 発表標題 アメリカのイスラーム：文化の対話？
3. 学会等名 2021年度立命館大学ライスボールセミナー（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 黒田彩加
2. 発表標題 ムスリム知識人が問い直す伝統と近代：エジプト的な宗教認識を軸として
3. 学会等名 第13回駒場中東セミナー、東京大学中東地域研究センター（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kuroda, Ayaka
2. 発表標題 Arab Democracy at the Crossroads: Mapping the Discourse of anti-Radicalism in the Post-Revolutionary Political Culture
3. 学会等名 The 18th Asia-Pacific Conference (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kuroda, Ayaka
2. 発表標題 Questioning Secular Modernity: The Political Vision of the Egyptian Islamic Intellectuals and their Quest for the Civil Society
3. 学会等名 International Workshop for Trans-Asian Academic Communication: Ideologies and Socio-Political Movements in the Modern Arab East
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 黒田彩加
2. 発表標題 アメリカにおけるイスラーム思想 ハーリド・アブルファドルのサラフィー主義(宗教的厳格派)批判とポスト・セキュラリズム
3. 学会等名 「NIHU地域研究推進事業「現代中東地域研究」京都大学イスラーム地域研究センター拠点・3班合同研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 黒田彩加
2. 発表標題 文献報告: 陳光興『脱帝国 方法としてのアジア』(担当: 第1章)
3. 学会等名 立命館大学アジア・日本研究推進プログラム「インターアジア現象としての「イスラーム的ジェンダー」の考察」プロジェクト第1回公開研究会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 Ayaka Kuroda and Shun Watanabe, eds	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Asia-Japan Research Institute, Ritsumeikan University	5. 総ページ数 63
3. 書名 Society, Politics and Ideologies in the Modern Arab East: A Trans-Asian Academic Roundtable (AJI Books)	

1. 著者名 Ammar Khashan and Ayaka Kuroda	4. 発行年 2021年
2. 出版社 立命館大学アジア・日本研究所	5. 総ページ数 72
3. 書名 Asia and Japan Today (1): Researchers' Essays at the Arrival of a New COVID Era (AJI Books 2)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------